

# 地区だより

VOL 21 1994.2.10

発行 西湘放射線技師会



新年明けましておめでとうございます。

厳寒の候、皆様には益々御盛栄のこととお喜び申し上げます。

年末年始の穏やかな明るい年明けとは裏腹に、政治は駆け引きのみ、経済は今にも土砂降りになりそうな、どんよりとした雰囲気になりました。西湘放射線技師会はどのような年明けとなったのでしょうか？

昨年を省みると、例年通りの行事予定をただ消化したというだけで過ぎてしまった感は否めません。ひとえに私の力不足と反省致しております。

今年度はこの反省の上に立って、何か一つで良いから”なるほど”と思われるような行事を行い、活発な会の運営に当たりたいと思います。

県技師会に於いては、昨年未念願の事務所拡張が成り、会員の利便を計れることになりました。ただし、そのためには一人一人が応分の負担はやむを得ないと思います。

拡張募金は500万円そこそこ、購入代金は約2千3百万円、差額は借入金で当てられています。

この事が、会の運営を圧迫するようなことが有っては成らないと思います。

細川首相は一つの法案の成否で辞任しても良いと言っていますが、(結局各党の持たれ合いで辞めずに済みましたが)私の場合は行事の盛衰により、途中で辞める訳には行かない事と自覚して居ります。再びこの1年を頑張りたいと思います。

会員の皆様に一層の御協力をお願い致しますと共に、西湘放射線技師会、及び皆様の今後益々の発展を祈念いたします。

大木 達也

## 地区委員会報告

期日：平成6年1月20日（木） 18：30～

場所：神奈川県技師会事務所

### 1 理事会報告

#### 1) 学校問題について

医師会等の3年制設立要望強硬のなか、技師会は4年制設立の趣意を説明し主張して参りましたが、残念ながら帝京大学に定員100名の専修学校設立が確定となりました。

#### 2) 第14回卒後再教育講習会について

卒後再教育講習会は、12月5日で終了し189名に修了証書が渡されました。また、県講習会においても延べ2,513名（H.4年度：1,762名）の高い出席数で好評でした。

#### 3) 新事務所購入について

現在の事務所は狭く、会議等の運営に支障を来すなどの理由で数年前より物件を探しておりました。運良く同じ階の504号室が空き、事務所拡張委員会及び理事会を経て12月27日に購入価格2,250万円で契約し、早速今回地区委員会会場となりました。しかし、銀行から1,000万円を借入したことから今後会員の寄付等で返済していかなければならず、一口2,000円から受け付けておりますので益々の御理解と御協力の程、お願い申し上げます。

### 【私感】

帝京大学に放射線技師の専修学校が設立されることについて、県放射線技師会会長をはじめ理事役員とも落胆の色を隠せませんでした。今後、我々技師個人はもちろん技師会に大きな影響を与えることは必然となり全国的に起こっている専修学校設立の要望に歯止めが利かなくなりました。

技師充足率が低いと言われている神奈川県でも、6年後の西暦2,000年までには充足されるであろうという統計がでています。新聞でもご存じのように、今年4月から北里大学に定員50名を募集します。

時代は変わり、今までのような爆発的な病院やCT装置などの増加は考えられません。今年の統計ではむしろ病院数は減少しているのです。

結論を急ぎますが、技師の将来を考えると今後はいたずらに数を増やすのではなく、より質を上げより社会的地位を上げるべきだと思うのですがあなたはどう思いますか？

地区委員 坂本

## 秋期学術講演の報告記

去る12月1日、足柄上病院の会議室にて平成5年度秋期学術講演を開催した。

最近骨粗しょう症が新聞やテレビで取り上げられているが、骨粗しょう症は骨からカルシウムが抜け、ちょうど大根に「ス」が入ったようになる病気。

自覚症状がなく、軽く転んだ程度で骨折する。四、五十歳以上の女性に多く現在、この病気で悩む人は全国で五百万人とされ、寝たきりの約二割は骨折が引き金になっている。厚生省では今年、婦人健康づくりの推進事業として全国の47市町村でモデル地域を決め、18～39歳を対象にした骨の検診に対し、機器整備などの補助をする方針が予定されるなど非常に関心が高まってきている。今回、横川メディカルシステム(株)の小田切 章先生より「最近の骨密度測定について」のお話を伺った。

まず骨粗しょう症とはから始まり、各種測定法(MD法、SPA法、DEXA法等の長所や短所)、臨床上の問題点、最近の業界事情などを含め詳しくそして解りやすく説明をしていただきました。

次に、【スポーツ整形外科における画像診断の有用性】について足柄上病院の整形外科部長であられる須藤成臣先生に講義をしていただきました。

日本におけるスポーツ医学とは比較的新しい分野であるが、スポーツ医学その内容が生理学、トレーニング学、栄養学、内科学、整形外科学など多岐にわたっている。

その中でも整形外科は放射線技師にとって関わりがある分野だが、あまり知られていないので今回の講義は非常に興味深い内容となりました。

### 1. スポーツ障害

- 1) 障害の発生頻度と種目別特性
- 2) 障害の内容と年齢的特徴
- 3) 障害の原因

### 2. 一般X線撮影(初診時、手術前後)そのPITFAL

- 1) 計測用
- 2) 断層
- 3) 経時的
- 4) ストレス撮影

### 3. OVERUSEと骨シンチグラフィ及びCT, PITFAL

### 4. 靭帯損傷と画像診断, そのPITFAL

- 1) 靭帯損傷の程度とストレス撮影
- 2) 靭帯損傷と間接造影
- 3) 靭帯損傷とMRI
- 4) 靭帯損傷の治療選択と画像

以上の内容をわかりやすくそして美しいスライドで講義をしていただき本当にありがとうございました。厚くお礼申し上げます。



## 施設紹介

国立療養所箱根病院 福島 均

平成4年11月に現施設に赴任し当会に参加させて頂きましたが、この度は国立療養所箱根病院の施設紹介をさせていただく機会を与えていただきありがとうございます。

施設名 国立療養所箱根病院  
所在地 小田原市風祭412番地

小田原駅から箱根登山電車で2駅目の風祭駅下車。病院正門まで約40メートル、駅からも見える位置にあり、国道1号線から見ますと、かまぼこで有名な鈴廣の奥の丘の上です。周りには緑が多く、静寂な環境に恵まれたところです。他の国立病院、療養所に比べ駅までの距離が一番近く、交通至便なところと言えます。

### 【沿革】

- 1907年 陸軍省所管の廃兵院として東京渋谷に設置される。その後、内務省へ移管、傷兵院と改称される。
- 1936年 現在の地へ移転。
- 1945年 戦争集結、国立箱根療養所と改称。国民の脊損医療を担う事となる。
- 1953年 附属准看護学校を設置。
- 1975年 国立療養所箱根病院と改称。
- 1976年 成人筋ジストロフィー症の病棟開設。
- 1981年 附属リハビリテーション学院発足。附属看護学校廃止。

### 【概要】

診療科目 整形外科、神経内科、リハビリテーション（理学診療）科、泌尿器科。病床数228床。職員約182名（非常勤を含む）。医師16名（常勤11名）。看護婦88名。医療技術職員16名（放射線技師は1名）。その他62名。

### 【附属リハビリテーション学院】

作業療法学科、理学療法学科、各学科の定員は20名。修学年数は3年。

### 【特色】

看護婦、医師、医療技術者はもとより各職種の職員がそれぞれの職務を全うすべく専心する中、患者を巻き込んだ和気あいあいの雰囲気を持っている。これはとかく慢性疾患専門の施設が持っている、いわゆる暗い雰囲気を払拭するもので闘病患者の励ましとなっていると思われる。このような人的な雰囲気と恵まれた自然環境の中で、当院は国立の医療機関として厚生省の方針

に基づき、脊髄損傷・筋ジストロフィー症及びその周縁疾患、神経疾患を主体とした慢性期からリハビリテーションに至るまで一貫した医療を行うべく努力しているところである。また、他の医療機関との競合を避けながら地域住民の一般診療も併考し当院の持つ機能を有効に利用することで地域の期待にも応えている。リハビリテーション関係は機能訓練棟、作業訓練棟、デイケア棟、野外プール、運動場等の施設、設備を利用して理学療法訓練、作業療法訓練、心理療法、言語療法等を行い、他に医療相談、栄養相談等もそれぞれの専門のスタッフにより行われている。

#### 【放射線科の施設】

MRI、多軌道断層撮影装置、X線テレビ撮影透視装置、一般撮影装置、外科用イメージ、歯科用撮影装置等が設置されている。

\*人手と時間のかかる診療内容の中で、地域の一般診療にもお役に立ちたいと努力しているところです。放射線科としては、まだ普及数の少ないMRIについて他院からのご要請にお応えしているところですが、処理能力に多少の余力がありますのでご要望があればご一報ください。みなさんと情報交換等の横のつながりで緊密になれば幸甚です。今後ともご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

国立療養所箱根病院 放射線科 Tel. 0465-22-3196 内線 269

福島 均



